東京大学情報学環
, ◊✲Ỉ‽㸦ศᯒ㡯┠ࡢ࡜ࡈỈ‽ཬࡧุ᩿⏤⌮㸧

 ◊✲άືࡢ≦ἣ

期待される水準を上回る

[判断理由]
 「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当
たりの学術論文は 7.96 件である。継続的な研究活動を保証する基幹教員に限っても 5.27 件
である。基幹教員による作品数は 18 件あり、また、文理融合の研究成果も 58 件を数え、
活発な研究活動がなされている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金は直
近４年で、一名当たり 0.94 件で特段多いとはいえない。一方で各種の公的資金、共同研究、
受託研究を受け入れ、一名当たりの外部資金は 1,500 万円を超えている。さらに、三つの寄
付講座を受け入れるなど活発に研究活動が進められている。研究活動の社会還元の観点か
らは、教員が多くの委員会の委員を務めており、公的責務を果たしている点などは、優れ
た成果である。
 以上の点について、情報学環の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活
動の状況は、情報学環が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

 ◊✲ᡂᯝࡢ≦ἣ

期待される水準にある

[判断理由]
 「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究業績として、バイヨン寺院の
デジタルアーカイブプロジェクトが学会で高い評価を受けている。メディアアート作品に
ついても液体シミュレーションを駆使した作品が高い評価を受けている。社会科学、経済
学と情報の学際的研究の分野でも優れた成果を得ている。社会、経済、文化面では、卓越
した研究成果として、ユビキタス社会構築の基礎技術となる音声インターフェイスの研究
が多くの企業に採用され普及が進んでいることが卓越した成果として特筆される。研究業
績に関し、毎年２件程度の主要な賞を受賞している。これらの状況などは、相応な成果で
ある。
 以上の点について、情報学環の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成
果の状況は、情報学環が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

研究 14-2

東京大学情報学環

,, ㉁ࡢྥୖᗘ

㸬㉁ࡢྥୖᗘ

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、
または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断さ
れた。
研究 14-3